先月の回覧にも記しましたが、最近は線状降水帯を始めとして
突然にある一か所に大雨が降る、という現象が多発しています。
我々の住む市原市も例外ではありません。
決して自然の力を軽視することがないように心がけたいものです。

集中豪雨

集中豪雨は突然起こる

都市部の河川や下水道は、一般的に１時間 50㎜の降雨を想定して造られているため、想定以上の降雨により都市型水害が発生するおそれがあります。都市型水害は、地表がアスファルトなどに覆(おお)われていることによる流域の保水・遊水機能の低下、地下利用などの高度化により起こると言われています。もくもくと積乱雲が大きくなった、真っ黒な雲の接近、雷鳴がとどろくなどの前兆の後、集中豪雨はあっという間に都市を襲います。

「東京都発行『東京防災』P150、151より」

集中豪雨から身を守るために

河川や用水路に近づかない

局地的な集中豪雨が発生すると、河川や用水路は水があふれ、激しい水の流れができることがあるので、絶対に近づかないようにしましょう。

地面より低い道は通らない

立体交差する道路で、路面の高さが前後と比べて低くなっている道（アンダーパス）や、歩行用の地下道路は、集中豪雨が発生すると冠水の危険性があるので通らないようにします。

地下・半地下から避難する

地下室や半地下家屋（地面より掘り下げられた家）は冠水しやすく、水圧でドアが開かなくなって逃げ遅れる危険があるので、２階などの安全な場所へ避難しましょう。

冠水している道路は危険

冠水している道路は、マンホールや側溝のふたが外れて転落する可能性があって危険です。やむを得ず冠水箇所を移動する場合は、傘などで地面を探りながら移動します。